



5月29日新嘗祭献穀田御田植式において
あいさつする栗市長

ごあいさつ

平成28年6月2日

月の初めに出演しているFM-N1のサテライトスタジオに入ると、いきなり3人の中学生のあいさつをいただきました。布水中学校の「わくワーク体験」でした。さまざまな事業所に入り、将来、自分の就きたい職業を考える機会を得るということです。

自分が中学生のころ、何になりたかったかということをおぼろげに思い出せることはできません。政治家を志したのは、さまざまな場面や歳を重ねるなかで、周囲の人が幸せになるためには自分ができることは何かと考えていたのが、今の仕事につながったのかなと思います。

仕事というものはおもしろくない、つまらないでは続きません。自分の好きなことの延長線上に仕事があるというのが幸せなのではないでしょうか。「わくワーク体験」で得たことを活かして頑張って自分の好きな道、仕事をみつけてほしいと思います。

5月29日、野々市では20年ぶりに献穀田御田植式が執り行われました。藤平田の千田努さんのほ場で、古式ゆかしく早乙女姿のこちらにもまた中学生の皆さんによるお田植の風景は感動的でした。区画整理事業により商業施設や住宅地が多くなるなか、お引受けいただいた千田さんをはじめ、町内会や周辺の地域の皆さんのご理解やご協力をいただきました。市としても大変光栄なことと思っております。稲穂が実る秋には「抜穂式」が執り行われます。それまで「住宅地のなかの献穀田」をあたたかく見守っていただければうれしいです。

来年は白山開山1300年です。この地域に住む私たちは、その自然の恵みのなかで命をつないで生きています。さまざまな技術の発達により、生活するのに都合のいい情報機器や社会のシステムが構築されています。そんななかにあって、現代人は自然と関わる感覚が少しずつ薄れてきているのではないかと思います。星空を見上げて、明日の天気を思い、吹く風の向きで天候の変化に気づくといった自然を感じる感性や知識が日常の忙しさで忘れ去られているように感じます。私自身も含め、心や体のバランスを上手に管理することで、感性を取り戻し、余裕のある生活がおくれるのではないかと思います。

自然は恩恵の反面、突然、恐怖も与えます。4月に発生した熊本地震はいまだに余震が続いております。本市では4月18日より義援金の受付を開始しました。連合町内会、野々市明倫高校、野々市中学校の生徒会からも積極的な募金活動をいただきました。市民の皆さんからいただいた義援金は日本赤十字社石川県支部を通じて確実に被災地へお届けいたします。

献穀田へのご理解や、義援金へのご協力と、心優しき野々市人に感謝いたします。